

近現代の品川

工業のあけぼの

鉄道開通とならんで品川の文明開化ぶんめいかいかの象徴となったのは、欧米の機械や技術を導入した工場の出現でした。明治6年（1873）、政府の積極的な産業振興政策によって、北品川がらすに官営の品川硝子製造所が設立されました。明治17年（1887）、工場は西村勝三にしむらかつぞうらに払い下げられて民営化し、ビール瓶や食器などを生産しました。

交通網の発達と都市化

それまで都市近郊の農村だった荏原地域えばらは、大正12年（1923）の関東大震災※後、都心部からの被災者や地方からの移住者により人口が急増しました。現在の東急目黒線、池上線、大井町線などの開通はこれに拍車をかけました。沿線は次々と宅地化され、商店街が生まれ、相次いで学校が開校しました。

※関東大震災：大正12年（1923）9月1日に発生した、マグニチュード7.9の大地震。関東地方一円に大きな被害をもたらしました。

戦時下の品川

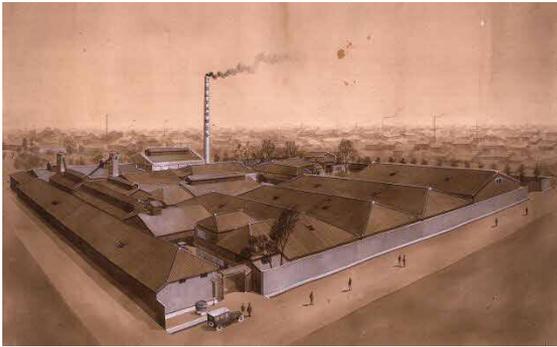
昭和12年（1937）の日中戦争※勃発後、人々の生活は公私ともに戦時体制に組み込まれる一方、物資が不足し生活は困窮しました。やがて戦局の悪化につれ、空襲も激しくなりました。特に同20年（1945）5月24日から26日の空襲で、荏原区（現在の東京都品川区のおおよそ西半分にあたる地域）は大きな被害を受けました。

※日中戦争：北京西郊の盧溝橋ろこうきょうで起こった発砲事件をきっかけにはじまった戦争。

復興から高度成長へ

家を失った人々は、ありあわせの材料で作ったバラックで生活し、慢性的な物資不足に悩まされました。そうした戦後の混乱期を経て、1950年代になると人々の生活は次第に安定していき、やがて高度経済成長時代を迎えます。昭和35年（1960）の都営地下鉄1号線（都営地下鉄浅草線）開通や同37年の首都高速道路の建設の一方で、品川の内湾漁業は終わりを告げ、海は埋め立てられてニュータウンや新しい産業の基地へと姿を変えていきました。

1_08_01



せんだいみそ
仙台味噌工場

やぎ
八木合名会社仙台味噌醸造所提供

大正 13 年 (1924)

江戸時代、仙台坂（現在の品川区東大井）には仙台藩（現在の宮城県仙台市周辺）の屋敷があり、そこで味噌が作られていました。明治時代（1868～1912）になってからは、八木合名会社が味噌作りを引き継ぎました。

1_08_02



仙台味噌の陶製の樽

明治時代

昭和 61～63 年 (1986～1988)

仙台坂遺跡出土

八木合名会社が使用していた仙台味噌を入れる容器です。発掘調査で出土しました。このほか、発掘調査では、江戸時代の石組み^{かまど}竈と明治時代の煉瓦組みの竈の遺構などが見つかかり、当時の味噌醸造の様子を知る手がかりとなりました。

1_08_03



きんあかいろきせさくらもん
金赤色被桜文ガラス花瓶

おおしげちゆうざえもん
大重 仲左衛門作と伝わる

明治時代 19世紀末

品川区指定文化財

さつまのくに
薩摩国（主に現在の鹿児島県）出身の
大重仲左衛門が作ったと伝わる製品の
一つです。大重は、品川硝子製造所で
ガラス製作を学び、ランプや食器など
優れた製品を生み出しました。

1_08_04



ふたつき ぼち
蓋付ガラス鉢

明治時代 19世紀末

品川硝子製造所で製造され、理化学製
品として使用された可能性が考えられ
ています。

1_08_05



品川^{しろれんが}白煉瓦製造所製の耐火煉瓦

明治時代

昭和 61～63 年（1986～1988）

仙台坂遺跡出土

品川白煉瓦製造所は、明治 20 年（1887）、^{しもうさのくにさくら}下総国佐倉（現在の千葉県佐倉市）出身の^{にしむらかつぞう}西村勝三によって品川硝子製造所の構内に設立されました。

1_08_06



灯油ランプ

明治時代～大正時代

明治時代（1868～1911）になり、灯油ランプは急速に普及しました。特に明治時代終わりから大正時代初め（1910年代から 1920 年代）に最盛期を迎えました。

1_08_07



化粧水「明色美顔水」

明治 18 年（1885）発売

1_08_08



明治商会製の歯磨き粉

明治 42 年（1909）以降発売

「歯磨き粉」とあるように、当時は粉末でした。

1_08_09



キング 第2巻第10号

大正15年（1926）10月1日発行
 大正9年ごろより大衆雑誌が出版されると、多くの人に読まれるようになり、急成長しました。特に、大正15年創刊の『キング』は100万部以上発行されました。

1_08_10



週刊目黒キネマ（右）と目黒キネマ名画集 No. 1（左）

右：大正14年（1925）

左：大正15年（1926）

「週刊目黒キネマ」は、大正12年に上大崎に開館した洋画専門館「目黒キネマ」のプログラムで、「目黒キネマ名画集」は、目黒キネマで上映する作品の紹介と解説を書いたものです。

1_08_11



コリントゲーム

昭和9年（1934）頃
 玉を転がして遊ぶゲームです。右下から棒で玉を突き、穴に入れて得点を競います。日本では昭和9年ごろに流行しました。

1_08_12



家庭用映写機

昭和時代 20世紀前半
 紙製のフィルムを手動で送る、家庭用の映写機です。

1_08_13



しょういだん 焼夷弾

昭和20年（1945）5月25日、杜松国民学校（東京都品川区豊町4-24）の校庭に落とされた、M69 ナパーム焼夷弾の殻です。

1_08_14



防衛食陶製容器

昭和 18 年（1943）頃
大日本防空食糧株式会社製作
平成 16 年（2004）大井鹿島遺跡出土
金属は軍需品に優先的に使用されたため、缶詰の代用品として陶製容器を用いました。

1_08_15



空襲警報サイレン

昭和時代
本体後ろのハンドルを回すと、サイレンが鳴ります。

1_08_16



愛国婦人会たすき

昭和時代
愛国婦人会とは、傷病兵や戦死者の遺族を保護するための婦人団体です。

1_08_17



品川高等女学校 学徒勤労報国隊腕章

昭和19年（1944）頃

学生は労働力として軍需工場に動員されました。昭和19年から学生の通年動員が始まると、ひとつの工場に複数の学校から動員される例も多く、識別のため胸章や腕章をつけました。

1_08_18



防毒マスク（市民用）

昭和18年（1943）2月

内務省規格品の十七年式防空用防毒マスクです。防火用具の一つとして各家庭に配布されました。

1_08_19



いもんぶくろ
慰問袋

昭和時代
手紙や娯楽品などを入れて戦場の兵士に届けるための袋です。

1_08_20



ぎつろう
雑嚢

昭和20年（1945）頃
布製のカバンです。

1_08_21



ゲートル

昭和20年（1945）頃
動きやすくするために、ズボンの裾と脛すねに巻きつけました。

1_08_22



てつかぶと
鉄兜

昭和 16 年（1941）頃
兵士の装備として使われるだけでなく、男性の防空用に市民も常時携帯しました。

1_08_23



ぼうくう ずきん
防空頭巾

昭和 20 年（1945）頃
女性、子どもの防空用として携帯されました。

1_08_24

**自動炊飯器 第1号**

東京芝浦電気株式会社（東芝）製作
昭和30年（1955）
スイッチを入れるだけで自動でご飯が炊きあがる炊飯器が開発されたのは、昭和30年のことでした。

1_08_25

**マイクロテレビ**

ソニー株式会社製
昭和38年（1963）

当時、世界最小・最軽量の白黒テレビとして開発されました。

1_08_26

**8ミリシネカメラ（シングル8）**

キャノンカメラ株式会社製
昭和40年（1965）

小型映画用カメラです。音声は入らず映像のみでしたが、日常生活が映像に残せることから、普及しました。

1_08_27



かくはん
攪拌式電気洗濯機

松下電器産業株式会社製

昭和 28 年 (1953)

1950 年代後半、洗濯機・白黒テレビ・
冷蔵庫は生活必需品とされました。